

## 令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	182	62	43	37	6.3	14.5	8.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

令和5年度 喜連中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>

平均正答率では全国平均を7.8ポイント、市平均を5.0ポイント下回り、無回答率では全国平均を1.7ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- (1)言葉の特徴や使い方に関する事項で全国平均を2.7ポイント、市平均を5.0ポイント下回っている。
- (2)情報の扱い方に関する事項において全国平均を11.2ポイント、市平均を8.5ポイント下回っている。
- (3)我が国の言語文化に関する事項において全国平均を4.7ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。

A 話すこと・聞くことでは全国平均を8.4ポイント、市平均を4.4ポイント下回っている。

B 書くことにおいて全国平均を10.1ポイント、市平均を7.7ポイント下回っている。

C 読むことでは全国平均を9.8ポイント、市平均を4.6ポイント下回っている。

<数学>

平均正答率では、全国平均を8.0ポイント、市平均を6.0ポイント下回り、無回答率では、全国平均より4.9ポイント、市平均を3.5ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

A数と式では全国平均を7.7ポイント、市平均を6.8ポイント下回っている。

B図形では全国平均を10.5ポイント、市平均を9.0ポイント下回っている。

C関数では全国平均を9.2ポイント、市平均を5.8ポイント下回っている。

Dデータの活用では全国平均を2.0ポイント、市平均を2.3ポイント下回っている。

<英語>

平均正答率では、全国平均を8.6ポイント、市平均を7.0ポイント下回り、無回答率では、全国平均より3.0ポイント、市平均を2.1ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- (1)聞くことでは全国平均を10.4ポイント、市平均を8.0ポイント下回っている。
- (2)読むことでは全国平均を7.1ポイント、市平均を5.0ポイント下回っている。
- (3)話すこと<やり取り>では全国平均を9.8ポイント下回っている。※市内の結果公表なし
- (4)話すこと<発表>では全国平均を4.2ポイント下回っている。※市内の結果公表なし
- (5)書くことでは全国平均を7.3ポイント、市平均を7.0ポイント下回っている。

【今後に向けて】

<国語>

前年度に比べ、全国平均・市平均とのポイント差が縮まっているものの、まだまだ改善の余地がある。情報の扱い方に関する事項や、書くことにおいて、全国平均及び大阪市の平均を大きく下回っている。

文章力検定やチャレンジテスト対策として、データ分析の課題に取り組んできたが、情報の扱い方に関する事項で全国平均及び市平均を大きく下回っていたので、引き続き、問題に取り組むだけでなく、自らデータを読み取り、分析するような取り組みを実施する。

それに比べて、言葉の特徴や使い方に関する事項については、去年度より漢字テストをほぼ毎時実施していたこともあり、例年に比べて全国平均に近い正答率となっているので、効果があったと考えられるので、引き続き実施していく。

話すこと・聞くことについてはグループワークを多く実施していることもあり、他の分野に比べて全国平均・市平均に近いが、想定していたほどの成果が出ていないので、より正確に話したり聞き取ったりできるように、ワークシートなどで補助していく。

<数学>

前年度に比べ、全国平均・市平均とのポイント差が3つの領域で縮まっているものの、まだまだ改善の余地がある。基本的な問題はかなりに取り組んだことによりその成果は表れていると思われるが、思考・判断・表現をようする問題がまだ苦手であるので、身についた基礎力をもとに応用問題を展開しさらに学力を高めてきたい。無回答の割合が昨年度より10ポイント近く減少したので、生徒たちが前向きにトライできていることが見えた。このように取り組みを継続していく。

<英語>

聞くことにおいては、今年度の授業では、意識して英語を聞く機会を増やしている。今後の成長に期待したい。

読むことにおいては、単語力を向上させることができると感じられるので、現在取り組んでいる。

話すことにおいては、英語で発表する場面がこれまで少なかったので、今後は積極的に取り入れていきたい。

書くことにおいては、間違いを恐れずに英語で表現しようとする気持ちが見られるようになってきている。

令和5年度 喜連中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

---